



社長のための 経営雑学

新しい時代を切り拓く実践経営情報紙

第106号

平成28年2月8日(火)

発行：久保総合会計事務所

〒536-0006

大阪市城東区野江4丁目11番6号

TEL (06) 6930-6388

FAX (06) 6930-6389

◆経営コラム

♪『同族経営がもたらすプラスとマイナスは...』♪
...「同族企業の業績は、非同族企業よりも優れている。」
とする研究結果！

「...実は世界の最先端の経営学(とファイナンス分野の研究)では、むしろ統計分析を使った実証研究の結果から、同族経営は業績が悪くないどころか、非同族経営よりも業績が高くなる可能性も主張されているのです。...」
「ビジネススクールでは学べない世界最先端の経営学」
(日経BP発行、入山章栄早稲田大学ビジネススクール准教授著)

企業がバナンスの観点から、同族経営の弊害がクローズアップされることがありますが、最先端の経営学では、同族経営の利点に着目されているようです。
以下、同書を引用しながら解説いたします。

■「同族経営は、日本だけに多いのではない。」

- ・「米国の雇用の6割以上は同族経営によるものと言われている。」
- ・「世界27か国の企業規模上位20社についてデータ分析を行った結果、創業者一族が株式の20%以上を保有している企業の比率は、27か国平均で約30%」
(1999年ジャーナル・オブ・ファイナンス、米ハーバード大学のラファエル・ラポルタ氏他)
- ・「米S&P500にリストされる企業のうち、3分の1が同族企業である。」
(2003年ジャーナル・オブ・ファイナンス、米アメリカン大学のロナルド・アンダーソン氏)
- ・「2000年時点での日本の上場企業1367社のうち、約3割が同族企業」
(2013年ジャーナル・オブ・ファイナンシャル・エコノミクス、加アルバータ大学のヴィカス・メロトラ氏他)

■「同族企業の業績は、非同族企業よりも優れている。」

- ・「米S&P500の403社のデータを使った統計分析からは、同族経営のほうが非同族よりもROA(純資産利益率)が高い。」
(上記同誌・アンダーソン氏)
- ・「米国の上場企業では、同族企業のほうが非同族企業よりも業績がよい。」
(2015年コーポレート・ガバナンス、アン・インターナショナル、オランダ・エラスムス大学のマルク・ファン・エッセン氏他)

■「同族経営がもたらすプラスとマイナスは...」

○同族経営がもたらすプラスのポイントは、

- ・「創業家が大株主であることで、「株主の利害」と「経営者の利害」の齟齬が出にくい。」
- ・「もの言う株主となって、経営の暴走を抑えることができる。」
- ・「目先の利益よりも、長期的な繁栄を目指し、結果としてブレのないビジョン・戦略を取りやすい。」
- ・「創業家が持ち得る人脈や名声が、経営に貢献する。」

○同族経営がもたらすマイナスのポイントは、

- ・「資質に劣る経営者が創業家から選ばれてしまうリスク。」
- ・「株主である創業家が、身内の経営者に甘くなる。」

同族経営のプラス・マイナス面を、上記の様に解説しています。

■「日本最強の後継社長は婿養子である。」

- ・「同族経営の決定的な課題は、資質に劣る経営者が創業家から選ばれてしまうリスク。それを解決するのは、婿養子。」
- ・「婿養子は長い時間をかけて外部・内部から選び抜かれた人になる場合が多いから。」

同族経営のリスクを解決する一つの方法は婿養子と解説されています。

■著者である入山准教授は、悪い側面が目立ってしまいがちな同族経営について、そのプラスとマイナスの要素を丁寧に分析しておられます。そのうえで、

- ・「創業家から後継者を出すことを積極的に否定する必要はない。」
- ・「意識して、厳しい目で後継者を鍛えること。」

が重要と解説しておられます。

一方、同族でない経営者を登用する時は、上記の同族経営のプラス面を損なわないように、「創業家をリスペクト出来る人材」でなければならないとおっしゃっておられます。

※最先端の「ビジネス知」が濃縮された読みやすい良書です。ご興味のある方はご購入ください。
「ビジネススクールでは学べない世界最先端の経営学」
(日経BP発行、入山章栄早稲田大学ビジネススクール准教授著)

※当事務所は、クライアントに『お金の心配をできるだけしない経営を行ってもらう』ための新しい機能(＝金融機関対応を含む財務の機能)を持つことを宣言いたします。
我々は、『税理士』ではなく、『新・税理士』です。
遠慮なくご相談ください。